



CLINICAL SIGNIFICANCE OF HYALURONAN IN PATIENTS WITH INTERSTITIAL PNEUMONIA

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2017-07-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 猪腰, 弥生 メールアドレス: 所属:
URL	https://fmu.repo.nii.ac.jp/records/2000083

論 文 内 容 要 旨

しめい 氏名	いのこし やよい 猪腰 弥生
学位論文題名	CLINICAL SIGNIFICANCE OF HYALURONAN IN PATIENTS WITH INTERSTITIAL PNEUMONIA
<p>特発性間質性肺炎は肺の炎症とそれに引き続く線維化を特徴とするが、その中に含まれる特発性肺線維症 (IPF) は 5 年生存率が約 50% と特に予後不良な難治性肺疾患である。間質性肺炎の病態の本態は、肺の炎症・傷害に引き続く過剰な修復による線維芽細胞からの過剰なコラーゲンやプロテオグリカンなど細胞外マトリックスの産生であるが、その詳細については不明な点が多い。ヒアルロン酸 (HA) はグリコサミノグリカンの一種であり、肺に存在するグリコサミノグリカンの約 70% を占め、肺の細胞外マトリックスの主要成分である。これまで、HA などの細胞外マトリックスは肺間質に存在する単なる glue (接着材) としてとらえられていたが、近年様々な生物学活性を持つことが報告され注目されている。HA は肺において主に線維芽細胞により生成され、高分子として存在し水分の移動の調整や血管新生などに重要な役割を果たしているが、高分子 HA の分解産物である低分子 HA は Toll-like receptor-2, -4 を介して IL-8/CXCL8 などの炎症メディエーターの産生を刺激することにより炎症反応を促進することが報告されている。このような HA の生物学的な活性については徐々に解明されてきてはいるが、間質性肺炎における HA の役割は不明な点が多い。今回我々は、HA が間質性肺炎患者において臨床的に有用なマーカーになるか、また HA が間質性肺炎の病因に関連しているかを検討した。</p> <p>当科に入院した慢性間質性肺炎 (CIP) 患者 (IPF、IPF 以外の特発性間質性肺炎 (IIP) と膠原病に伴う間質性肺炎 (IP-CVD)) の血清と気管支肺胞洗浄 (BAL) 液中の HA 濃度を測定し、最初に血液検査、呼吸機能検査、BAL 所見などの臨床的なマーカーとの関連を検討。次に、間質性肺炎の致死的な病態である急性増悪時の HA についても解析した。</p> <p>CIP 患者の血清 HA 濃度は健常者と比較して高値であり、血中の炎症マーカー (CRP, ESR) や線維化マーカー (SP-A, SP-D) と正の相関を示した。また BAL 液中 HA 濃度は BAL 液中の炎症細胞分画 (好中球比率、リンパ球比率) と正の相関を示した。更に興味深いことに BAL 液中 HA 濃度は好中球遊走因子である IL-8/CXCL8 の BAL 液中濃度と正の相関を示した。間質性肺炎急性増悪患者の検討では、血清 HA 濃度は CIP 患者と比較し有意に上昇しており、更に血清 HA 濃度が高値である患者は急性増悪発症 60 日後の生存率が低かった。</p> <p>以上の結果より、血清 HA は間質性肺炎において急性増悪を含め臨床的に有用なマーカーであり、HA は肺への好中球遊走に重要な役割を果たしていると考えられる。</p>	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。